

# 上佐野舟橋遺跡5

2014年

高崎市教育委員会  
株オーナーズ・プロジェクト  
(有)毛野考古学研究所



## 例　　言

1. 本書は、宅地造成工事に伴う上佐野舟橋遺跡における高崎市教育委員会に関する第5次調査の埋蔵文化財報告書である。
2. 本遺跡の所在地は群馬県高崎市上佐野舟橋 135、136-1、132-1 番地である。
3. 本調査及び整理作業は事業者、高崎市、有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 本調査の体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会 田口一部、角田真也

有限会社毛野考古学研究所 日沖剛史 土生朗治 小出琢磨

5. 現地調査を平成 26 年 2 月 5 日～平成 26 年 3 月 7 日、整理調査を平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 7 月 31 日の期間で実施した。

6. 本遺跡は高崎市教育委員会の遺跡番号で 588 である。

7. 本書の執筆については、I を田口が、それ以外を土生が行った。

8. 遺構のトレース・版組及び埴輪の観察表は賀来孝代が、遺物の実測・観察表及びトレースは宮本久子が行った。

9. 本書に係わる資料は一括して高崎市教育委員会が保管している。

10. 発掘調査・整理作業に携わった方は以下の通りである。

【発掘調査】石倉稔夫、竹生正明、永井述史、庭山靖正、橋元裕児、亀田浩子、高橋奈緒

【整理作業】仙波葉津美、高橋真弓、根本正子

11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、下記の諸氏・機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。佐々木義則 宮田忠洋 山下工業株式会社

## 凡　　例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図、高崎市発行 2 千 5 百分の 1 都市計画図である。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。  
S I · · 坪穴住居跡 S K · · 土坑 SD · · 溝
3. 実測図で使用した縮尺は以下の通りである。  
坪穴住居跡 · · 1 / 60 土坑 · · 1 / 60 溝 · · 1 / 60
4. 遺構一覧表・遺物観察表の表記は( ) 内数値が計測推定値を、[ ] 内数値は残存値を表す。
5. 遺物実測図中のスクリントーンは以下の通りである。

 煤付着範囲  陶器断面  須恵器断面

 羽口ガラス質付着範囲  羽口鉄分付着範囲

## 目 次

### 例言・凡例

### 目 次

I 調査に至る経緯と調査の経過.....	1
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 調査の経過 .....	1
II 遺跡の位置と環境.....	2
1. 地理的環境 .....	2
2. 歴史的環境 .....	2
III 調査の方法と基本層序.....	4
1. 調査の方法 .....	4
2. 基本層序 .....	4
IV 遺構と遺物.....	6
1. 堅穴住居跡 .....	6
2. 土坑 .....	7
3. 溝 .....	8
4. 遺構外遺物 .....	10
V 総 括.....	26

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第11図 1号住居跡出土遺物(1)	17
第2図 調査地区の位置	3	第12図 1号住居跡出土遺物(2)	18
第3図 基本土層図	4	第13図 1号住居跡、3・5号土坑、1・4 号溝出土遺物	19
第4図 上佐野舟橋遺跡全体図	5	第14図 5号溝出土遺物	20
第5図 1号住居跡	11	第15図 5号溝・遺構外出土遺物	21
第6図 1号住居跡カマド・掘方	12	第16図 カマド構築解説図	26
第7図 土坑	13	第17図 墓輪を使用したカマドの復元案	27
第8図 1~3号溝	14	第18図 11世紀前後の小皿の法量変化と舟 橋遺跡の小皿の年代的位置づけ	28
第9図 4・5・7号溝	15	第19図 舟橋遺跡と本調査区の位置関係	29
第10図 6号溝	16		

## 表目次

第1表 1号住居跡出土遺物観察表(1)	22	第6表 4号溝出土遺物観察表	23
第2表 1号住居跡出土遺物観察表(2)	23	第7表 5号溝出土遺物観察表	24
第3表 3号土坑出土遺物観察表	23	第8表 6号溝出土遺物観察表	25
第4表 5号土坑出土遺物観察表	23	第9表 遺構外出土遺物観察表	25
第5表 1号溝出土遺物観察表	23		

## 写真図版目次

P L. 1 調査区全景	P L. 5 1号住居跡出土遺物
1号住居跡遺物出土状況	P L. 6 1号住居跡・土坑・溝出土遺物
P L. 2 1号住居跡	P L. 7 5号溝出土遺物
P L. 3 1号住居跡 1~5号溝	P L. 8 5号溝出土遺物、遺構外出土遺物
P L. 4 5~7号溝 1~4号土坑	



## I 調査に至る経緯と調査の経過

### 1. 調査に至る経緯

平成 25 年 6 月、株式会社オーナーズ・プロジェクト（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地は埋蔵文化財包蔵地であるため、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 7 月 4 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 12 月 9 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代～中近世の遺構・遺物を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、開発予定地の内道路建設部分について記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成 26 年 1 月 22 日付けで高崎市教育長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 26 年 1 月 22 日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

### 2. 調査の経過

平成 26 年

- |         |  |
|---------|--|
| 2月 5日   | 近隣住民への挨拶回り。調査準備。   |
| 12日     | 重機による表土除去作業開始。全体の 3/4 まで表土除去終了。  |
| 13日     | 表土除去終了後、人力による遺構確認作業。竪穴住居跡 1 軒、溝跡 7 条、土坑 6 基、北東部で浅間 B（以下 As-B）軽石層の広がりを確認する。 |
| 14～19日  | 降雪により作業中止。   |
| 20～21日  | 土坑、溝の掘り込み作業を行う。  |
| 24～27日  | 溝、竪穴住居跡の調査を行う。   |
| 3月 3～6日 | 竪穴住居カマド調査、As-B 軽石下層の調査、As-B 下洪水層の下から確認された溝の調査、基本土層テストピットの掘削を行なう。           |
| 7日      | 竪穴住居跡床下調査を行い、遺構図面を作成しすべての作業を終了する。  |



作業風景

## II 遺跡の位置と環境

### 1. 地理的環境

高崎市は群馬県の中西部にあり、前橋市、安中市、藤岡市、渋川市、富岡市等に隣接している。高崎市の西北部は榛名火山の火山麓扇状地で、その末端は前橋台地、高崎台地に連続している。前橋台地と高崎台地の間には井野川と井野川の造る低地帯が広がり、高崎台地の西側には烏川や碓氷川の低地帯が南東方向に延び、さらにその南西には野殿丘陵や岩谷谷丘陵の丘陵地になっている。地質的には、野殿丘陵や岩谷谷丘陵に新第三紀の堆積岩が分布している以外は、赤城山や榛名山からの火山噴出物や利根川や烏川などの河川によって運ばれてきた堆積物から成っている。高崎台地は前橋台地と同様に前橋泥流の堆積面が元となった台地で、前橋泥流の上には高崎泥流が堆積し、泥流の上位に高崎泥流層が堆積している。台地面の高さは高崎市中心部で標高約95m、調査地域南端では標高約84mとなっている。

本遺跡のある高崎市上佐野町舟橋は烏川左岸にある台地地形で、北側を烏川に連する埋没流路が細長く弧を描き蛇行しているため地形的に高崎台地から切り離された独立した地形となっている。調査地点は北側の埋没流路に面した台地縁辺部に位置している。

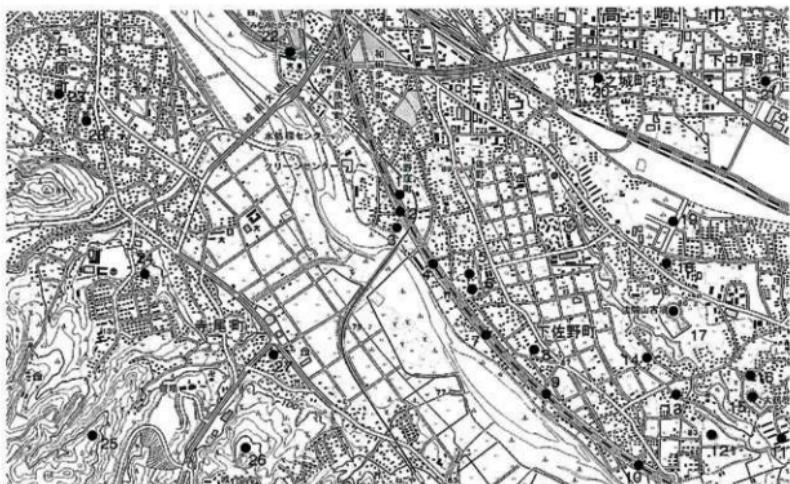
### 2. 歴史的環境

上佐野舟橋遺跡周辺には、縄文時代以降古墳時代、奈良・平安時代の集落遺跡や古墳群の存在が確認されている。縄文時代の遺跡では、下佐野遺跡で縄文時代前期から後期にかけての竪穴住居跡が、倉賀野万福寺遺跡では縄文時代中期後半から末頃の竪穴住居跡や遺物が出土している。弥生時代の遺跡では、烏川左岸上流の城南小校庭遺跡から弥生時代中期後半から末頃の竪穴住居跡や遺物が出土している。古墳時代になると古墳時代前期に下佐野寺前地区6号墳や9号墳で前方後方型の周溝を持った古墳ないし方形周溝墓が確認されている。古墳では下佐野I地区A区から古墳時代前期末～中期初頭頃の直径42mの円墳である長者屋敷天王山古墳が見られる。出土遺物には大型の朝顔形埴輪や二重口縁壺、主体部からは銅鏡や玉類、石劍、石製模造品等が出土している。また、南東約2km離れた位置には墳丘長171mの前方後円墳の浅間山古墳、全長123mの大鶴巻古墳等が見られ、これらを包括したこの地域は大古墳が造られる時期に古墳祭祀とともに政治の中枢域になっているものと見られる。佐野古墳群は5世紀初頭前後から、後期にかけて約80基を超える数の大小古墳が烏川左岸に帶状に造られている。後期古墳では、佐野古墳群中最大規模の古墳として墳丘全長61.2mとされる漆山古墳が造られる。埴輪を伴う前方後円墳で、主体部は凝灰岩質の加工石材を利用した横穴式両袖型石室を持ち、6世紀末葉前後の年代が与えられている。佐野古墳群の北西部に位置する本遺跡付近では、やや散開した状態で円墳群が分布している。

古墳時代の集落遺跡では、烏川左岸段丘上に上佐野舟橋遺跡、下佐野遺跡、倉賀野万福寺遺跡から古墳時代前期の集落が確認されている。下佐野遺跡の場合、古墳時代前期から中期の始めにかけての集落が見られ、その後途切れ後期になって再び集落が現れるようになる。

律令期の佐野の一带は、「和名抄」に見られる群馬郡小野郷に比定する説が有力とされている。8世紀前半の『金井沢碑』には、「群馬郡下賛郷高田里の三家の…」の記述があり、仏教に帰依した地方豪族「三家氏」の居宅が下賛郷にあったと考えられている。

また、「万葉集」以来「佐野」、「佐野の舟橋」については、特に平安時代に多くの和歌に詠み込まれるなど、上野国の中でも著名な地域であった。



1. 上佐野舟橋遺跡（本調査）
2. 舟橋遺跡
3. 上佐野舟橋遺跡（高崎市調査）
4. 下佐野遺跡寺前地区
5. 深山古墳
6. 上佐野久保遺跡
7. 下佐野遺跡 I 地区
8. 下佐野一本木道跡
9. 紗音寺山古墳
10. 下佐野遺跡 II 地区
11. 倉賀野万福寺遺跡
12. 大山古墳
13. 藏王塚古墳
14. 庚申塚古墳
15. 大鶴巻古墳
16. 小鶴巻古墳
17. 浅間山古墳
18. 倉賀野上新羅 I 遺跡
19. 下之城村前遺跡
20. 和田下ノ城遺跡
21. 下中居条塚遺跡
22. 城南小校庭道路
23. 石原稻荷山古墳
24. 鶴沼遺跡
25. 寺尾中城
26. 茶臼山城
27. 寺尾町下遺跡
28. 三島塚古墳

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 調査地区の位置

### III 調査の方法と基本層序

#### 1. 調査の方法

表土除去は重機を使用して遺構確認面（5層上面）まで掘り下げた。その後人力作業により遺構確認を行い、堅穴住居跡1軒、土坑6基、溝7条を確認し、遺構の掘り下げを行った。遺構の測量は、世界測地系平面直角座標第Ⅹ系上の公共座標に基づいて行った。公共座標上で、調査範囲外側の北西角のX軸、Y軸を起点として、南方向と東方向に10mおきにグリッドラインを設定した。

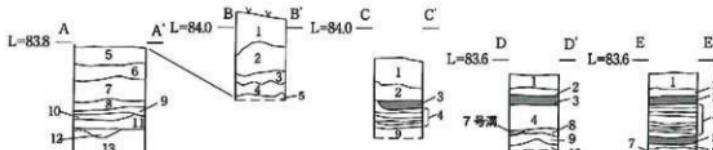
調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精查、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/20を使用した。遺跡全測図は1/200で作成した。

写真撮影は、白黒35mm判、リバーサル35mm判、デジタルカメラを使用し、調査の各段階に随時行った。

#### 2. 基本層序

基本層序は、調査区の北西壁側のB～C地点の4箇所と南側の台地上のA地点で深掘りテストピットを設けて記録した。A地点は台地上の基盤層以下の地山の堆積状況を記録した。B地点は、基盤層である黄褐色ローム層よりも上に堆積している暗褐色土層を記録した。基本的に全体に共通する1層は表土で近現代の畑等の耕作土層である。南側の台地上のB地点では現代の表土層の下に2層～4層の暗褐色土が堆積している。2層中にはAs-A軽石が含まれ、3層中にはAs-B軽石が含まれている。5～12層にはぶい黄褐色～褐色ローム層で、11層では砂質土層が挟まれ、8・12層では砂質ローム層になり、13層では粘土層になっている。斜面～低地部へかけてのC・D地点は、3層がAs-A軽石の災害復旧層と見られる堆積土で、As-A軽石の黒色粒と明灰色粒が層位を成さずに入大量に堆積している。4層は中近世の水田耕作土層で、灰色土層と黄褐色土の薄い水平堆積が複数面観察されてい

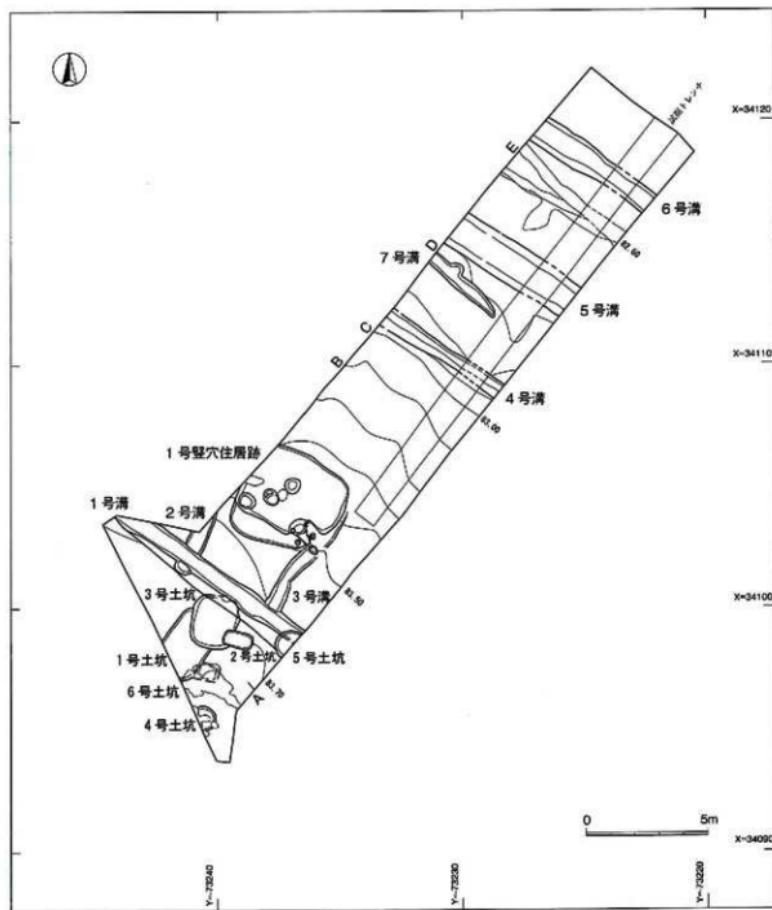


A・B 地点

- 1. 黄褐色土、硬さ・粘性なし
- 2. 暗褐色土、粘性少し、As-A混じり
- 3. 黄褐色土、As-A混じりの堆積土層
- 4. 黄褐色土、炭化物灰少、As-B混少、弱りあり、粘性弱い
- 5. ぶい黄褐色、炭化物灰中少、弱りあり、粘性弱い
- 6. ぶい黄褐色、白色軽石混、褐褐色土小プロック状、弱りあり、粘性弱い、ガラス光沢無少量
- 7. 黄褐色、褐色軽石土のブロック状、下部に褐色土が厚きセメント部分的に堆積
- 8. ぶい黄褐色、砂質ローム、柔らかく粘性なし
- 9. 黄褐色土、砂質ローム、柔らかく粘性なし
- 10. 黄褐色土、やや暗いローム層、柔らかく粘性なし
- 11. 黄褐色土、比較的柔らかくない土層
- 12. 黄褐色土、硬さあり、粘性なし
- 13. 黄褐色土、砂質ローム、柔らかく粘性なし
- 14. ぶい黄褐色、砂質ローム、柔軟に熱化する、柔軟あり、粘性なし

- C・D・E 地点基本土層
- 1. 黄褐色土、炭化物灰混入土層、弱り・粘性なし
  - 2. 黄褐色土、シート質土、As-A混じり
  - 3. 黑褐色土、As-Aの2次堆積層、炭化物灰混入と炭化物灰シート質土が複数面を成す、泥張りあった瓦層
  - 4. 黑褐色土、泥張した黒褐色土と含む紅褐色シルト土と灰色泥炭シート質土が互層を成す
  - 5. As-Aの瓦層、厚さ10cmの瓦層群と瓦層群間に4-5cmの土層が互層し更下部に大瓦層群
  - 6. 黄褐色土、シート質泥炭土層
  - 7. 黄褐色土、薄シート質土層、プロック状に熱化土を含む
  - 8. 黄褐色土、炭化物灰混入土、As-B混少、柔軟あり、粘性弱い
  - 9. 黄褐色土、炭化物灰混入土、柔軟あり、やや硬らかい
  - 10. 黄褐色土、炭化物灰混入土、柔軟あり
  - 11. 黄褐色土、炭化物灰混入土、柔軟あり
  - 12. 黄褐色土、炭化物灰混入土、柔軟あり

第3図 基本土層図



第4図 上佐野舟橋遺跡全体図 (1:200)

る。C地点の9層は黒色土層で、灰白色軽石粒を含む古代～中世の遺構確認面となっている。D地点では9層が黒色土層となっている。E地点では、4層が中世～近世にかけての水田耕作層で、観察ではシルト質土の酸化層と還元層が7枚以上互層をなしている。5層はAs-B軽石の純層で、明灰色軽石と黒灰色の軽石が薄く互層に堆積し、最下層は青灰色の火山灰が薄く堆積している。6・7層は洪水等の要因によるシルト質土が堆積している。平安時代以前の遺構確認面は、A・B地点で5層上面、C・D地点で9層上面、E地点では10層上面となっている。

## IV 遺構と遺物

### I. 壊穴住居跡

壊穴住居跡は1軒確認されている。カマドに円筒埴輪を使用していたと見られる平安時代の壊穴住居跡で、口径の小さな小皿と土釜が出土している。舟橋遺跡の平安時代後葉の住居の中でも新しい時期の壊穴住居跡と見られる。

#### 1号壊穴住居跡（遺構：第6・7図、PL.1・2・3／遺物：第12・13・14図、第1表、PL.5・6）

位置：X = 34101, 34105, Y = -73240, -73235 グリッド。平面形態：長方形の平面形で、隅がやや丸味を帯びる。南東部がカマド製作のためやや室内に突出している。南側の棚状の部分を含めるとほぼ方形になる。重複：3号溝にカマド煙道の先端部を削られている。規模：4.19 m × 4.10 m。残存深度：16～28cm。主軸方位：N - 30° - E。壁周溝：確認されなかった。床面の状態：カマド前面からP1の周間に掛けてやや硬化している。カマド：住居南東部に屋内に突出するようにしてカマド本体が設けられている。向かって右袖部は南壁が住居内側にやや膨らむ程度の不明瞭な形でその先端内側に径約18cmの円形の掘り方P6があり、掘り方外縁に円筒埴輪小片が残存していた。左袖部は地山削り残しで造られている。左側の袖部先端内側には径約18cmの平面半円形の掘り方P7が確認されている。燃焼室両側の壁、煙道部両側の壁はよく残存しており明赤褐色に焼土化している。燃焼室の幅は約40cm、煙道部は長く焼き口から煙道の先端までは1.4mを測る。途中には内面がよく焼土化した天井部が残存している。煙道天井残存部での煙道部の幅は18cm、高さ14cmを測る。柱穴：床上に主柱穴の穴は確認できないが、西側隣に貯蔵穴状のP1の穴が、中央部には掘り鉢状に掘り込まれ底面に焼土がブロック状に残るP2の穴、遺物の出土状況から見て住居廃絶後に掘られたと考えられる床を壊す穴としてP3・4の穴の計4箇所が開いている。P3の覆土からは、土釜片、円筒埴輪片が出土している。P4の覆土からは、被熱を受けた自然礫が出土しており、カマドの構築材料であった可能性が考えられる。P3・4はカマド崩壊後に掘られ埋められた穴と考えられる。P5・10は床下から確認されている。P6～9はカマドに関連する窟み穴と見られる。床下：床下の壊穴住居掘り方は東隅部に大きな円形の掘り方と南東壁側に楕円形の掘り方がやや深く掘られており、カマド前面から南西壁寄りの掘り方は全体に浅く掘り込まれている。遺構の埋没状態：住居跡を埋没させている暗褐色土中には白色軽石粒が少量、炭化物粒が少量含まれている。白色軽石粒は、壊穴住居の壁面に露出する地山層中に含まれているものと同一かと見られる。覆土中には、明瞭なAs-B軽石の含有は認められなかった。下層に土器や円筒埴輪の堆積が見られるので、壊穴住居跡廃絶後床面にP3やP4の穴が開かれ、カマドが壊され、カマドで使用されていたと思われる円筒埴輪や土釜等がP4の穴に入り込んでいるものと推測される。その後埋没土が少し流入する段階に完形の小皿5点が入っている。楕状の部分の覆土は住居覆土と連続している。遺物出土状態：覆土中からは酸化焰焼成の小皿や土釜、円筒埴輪、羽口片、自然石が出土している。小皿は7点のうち5点が完形で覆土の下層から出土しており、北壁と西壁寄りの2、3の小皿2点は正立状態、東壁際の4と南壁の立ち上がりの外側棚状部分の5と、住居跡中央のP4の埋没土上層から出土している1の小皿3点は伏せた状態で、いずれも床面への埋没土の流入が少し始まってから入っている。壊穴住居跡廃絶後に意図的に配置遺棄されている可能性が考えられる。建物跡廃絶時に小皿を使用した祭祀の可能性が考えられるのではないだろうか。その他に、破損した6の小皿片がカマド

覆土中に円筒埴輪片などとともに出土している。この小皿は、還元焰気味の焼成で、口縁部が部分的に酸化しており、口縁部だけ2次的な被熱があったと見るとすると、灯明皿として使用されている可能性が考えられる。小皿は器高が低く口径が小さい特徴があり、時期については総括の中で舟橋遺跡の資料等と比較して検討している。土釜は破片で5個体分が出土しているが、全体形状が復元できるものはかろうじて1~2点で、カマドから出土している10の土釜以外は周囲からの廃棄遺物かもしれない。覆土中からは土器のほかに円筒埴輪片が8点、安山岩のやや大きな自然石が4個、計18.3kg出土している。埴輪も土釜と同じように、壊して廃棄されている遺物だが、カマド付近に集中しており、カマドの構築材として使用されていた可能性が考えられる。埴輪は、円筒埴輪と朝顔形埴輪、形象埴輪の基部があり、カマドの煙道部やカマド袖部の覆土から出土しているものが多く、一部P2・4の覆土からも出土している。14の朝顔形埴輪は復元したところ図のように上部内面の半周部分と外側縦方向に長さ15cm、幅5~6cmの煤付着痕があり、煤痕と反対側の内面と外面に粘土の付着痕が見られる。また、裏側の欠け部分の形がカマド左袖地山に残されたP7の掘り方の形状とほぼ一致することを併せて考えると、左袖部のP7に立ててさらに部分的に粘土で被覆し、カマド袖構築材として使用されていたものと思われる。13の埴輪は出土位置から見て向かって右袖部に使用されていたのではないかと思われる。15の円筒埴輪は煙道部先端付近から出土している。埴輪の上部内外面に幅6~8cmの粘土付着痕が見られ、出土位置が煙道先端部である点から逆さ斜めの状態にして煙出し部に使用していたと推測する。15の円筒埴輪は、上佐野舟橋遺跡の9区1号古墳から出土しているものと大きさや形がよく似ている。

## 2. 土坑

土坑は調査区内から6基確認されている。小型のものは円形と長方形のものがあり、大型のものは隅丸長方形である。小型で長方形のものは、切り合い関係で隅丸方形のものよりも新しい。隅丸長方形のものは底面が平坦でやや大型があるので、土坑というより竪穴造構に近いものである。

### 1号土坑（造構：第7図、PL.4）

規模：長軸2.90m、短軸1.85m、深さ0.35m。

造構所見：平面隅丸長方形。断面逆台形。覆土はローム小ブロックを多量に含む繊り有りのある堆積土層で、下層には底面に薄く貼り付くように炭化物の堆積が見られた。3号土坑と重複しており、3号土坑に北東部を壊されている。竪穴建物跡としては小型で、土坑としては大型である。3号土坑と規模や平面形に共通する点が見受けられる。遺物所見：古墳～平安時代の土器小片が出土している。

時期：出土遺物からは平安時代以降と見られる。造構の特徴から見ると、底面が平坦で薄い炭化物の堆積層が中央部に広がっている点、覆土が小ブロックを主体とした埋め戻し堆積のようである点などから見て、3号土坑と同様に中世前半代に見られる方形竪穴造構の類になる可能性を考えたい。

### 2号土坑（造構：第7図、PL.4）

規模：長軸1.20m、短軸0.67m、深さ0.27m。

造構所見：平面長方形。断面逆台形。1号土坑の東部と重複し、1号土坑を壊している。覆土はローム中ブロックを多く含み、埋め戻し堆積と見られる。

遺物所見：遺物は出土していない。

時期：3号土坑よりも新しいので、中世以降の時期の遺構と考えられる。

#### 3号土坑（遺構：第7図、P.L.4／遺物：第13図、第3表、P.L.6）

規模：長軸2.20m、短軸1.86m、深さ0.24m。

遺構所見：平面長方形。断面逆台形。覆土は底面を薄く被覆する下層の2層と上の1層に分かれる。1層は、含有するローム小ブロックが均質な入り方で埋め戻し堆積と見られる。覆土中にはAs-B軽石を極少量含んでいる。北側の壁際の床面にピットが1箇所あく。切り合い関係で1号土坑よりも新しい。

遺物所見：古墳時代前～中期の土師器壺の口縁部片、平安時代の羽釜口縁部片等が出土しているが遺構に伴うものではない。

時期：中世以降の時期の遺構と考えられる。

#### 4号土坑（遺構：第7図、P.L.4）

規模：長軸1.01m、短軸-m、深さ0.31m。

遺構所見：平面長方形。断面逆台形。覆土中にはAs-B軽石を極少量含んでいる。

遺物所見：自然石が1点、その他遺物は出土していない。

時期：中世以降の土坑と考えられる。

#### 5号土坑（遺構：第7図／遺物：第13図、第4表、P.L.6）

規模：長軸1.36m、短軸-m、深さ0.32m。

遺構所見：平面長方形。断面逆台形。2号土坑と重複し、2号土坑に切られている。覆土中にはAs-B軽石が含まれている。

遺物所見：古墳時代前期～中期の土師器片、平安時代の土釜片等が出土している。

時期：中世以降の土坑と考えられる。

#### 6号土坑（遺構：第7図）

規模：長軸[1.0]m、短軸0.71m、深さ0.23m。

遺構所見：上層の1層の堆積は不整形な擾乱が本跡を切り込んでいるものでAs-A軽石が含まれている。2層は本

### 3. 溝

跡の主要な堆積土層で、As-B軽石が含まれている。1号土坑との切り合い関係は不明である。

遺物所見：古墳時代前期の壺・器台の破片、不明土師器片等小片が5点出土しているが、遺構に伴うものではない。

時期：覆土にAs-B軽石が含まれている点から中世以降の遺構と考えられる。

7条の溝は、中世以降の新しいものと、浅間B軽石層下から確認された古墳時代～平安時代のものと、B下の洪水層面の下から確認される平安時代以前の溝2条（5・6号溝）がある。平安時代以前の溝からは、平安～古墳時代の土器が出土している。5号溝からは上層で平安時代の土器が、下層からは古墳時代の高杯、台付壺、壺・

壺が出土している。6号溝からは、古墳時代の壺の小片や奈良時代の須恵器蓋片が出土している。

1号溝（造構：第8図、PL.3／遺物：第13図、第5表、PL.6）

規模：長さ[9.20]m、幅1.25m、深さ0.39m。

遺構所見：北西－南東方向にはまっすぐ延びている。断面は逆台形で、覆土にはAs-B軽石が含まれている。

遺物所見：古墳時代前期～中期の土師器片、平瓶と見られる灰釉陶器、平安時代の羽釜・土釜片等が出土している。

時期：中世以降の時期と見られる。

2号溝（造構：第8図、PL.3）

規模：[2.94]m、幅0.74m、深さ0.24m。

遺構所見：南西－北東方向にはまっすぐ延びている。断面は逆台形で、覆土下層にはAs-B軽石が多量に含まれている。1号溝と切り合いがあり、1号溝に切られている。

遺物所見：出土していない。

時期：中世以降の時期で、1号溝よりも古い。

3号溝（造構：第8図、PL.3）

規模：[2.75]m、幅0.68m、深さ0.13m。

遺構所見：南西－北東方向に延びている。断面は浅い皿状で、覆土にはAs-B軽石が少量含まれている。

遺物所見：出土していない。

時期：中世以降の時期のものと見られる。

4号溝（造構：第9図、PL.3／遺物：第13図、第6表、PL.6）

規模：[5.5]m、幅0.87m、深さ0.38m。

遺構所見：北西－南東方向にはまっすぐ延びている。断面は緩やかな傾斜の逆台形で、覆土下層にはAs-B軽石が、上層にはAs-A軽石が含まれている。

遺物所見：古墳時代後期の須恵器壺胴部片が少量、近世末～近代頃の陶器の摘みが出土している。

時期：中世以降、同じ場所を掘り返して近世以降も利用しているものと思われる。

5号溝（造構：第9図、PL.3・4／遺物：第14・15図、第7表、PL.7・8）

規模：[5.6]m、幅1.64m、深さ0.50m。

遺構所見：北西－南東方向にはまっすぐ延びている。断面は逆台形である。

遺物所見：上層から平安時代の土器が、下層からは古墳時代の高壺、台付壺、壺・甕が出土している。その他に自然石で安山岩が3個総計19.7kg出土している。

時期：下層の遺物は古墳時代前期から中期の土器で、特に中期の土器に完成品が多いことから古墳時代中期の造構と見られる。埋没後最上層に平安時代の10世紀前半代頃の遺物が複数出土していることから平安時代には完全に埋没しているものと見られる。

6号溝（遺構：第10図、P.L.4／遺物：第15図、第8表）

規模：[5.5]m、幅1.24m、深さ0.29m。

遺構所見：北西－南東方向にはばまっすぐ延びている。断面は逆台形で、As-C軽石を含んでいる。

遺物所見：古墳時代後期の土師器坏の口縁部片や奈良時代の須恵器蓋の摘みが出土している。

時期：確認面は平安時代以前の洪水層の下面から見つかっていることと、遺物の中で最も新しいのは奈良時代の須恵器の蓋であるので、覆土埋没は奈良時代以降と見られる。洪水層も奈良～平安時代と見られる。

7号溝（遺構：第9図、P.L.4）

規模：[3.14]m、幅0.57m、深さ0.10m。

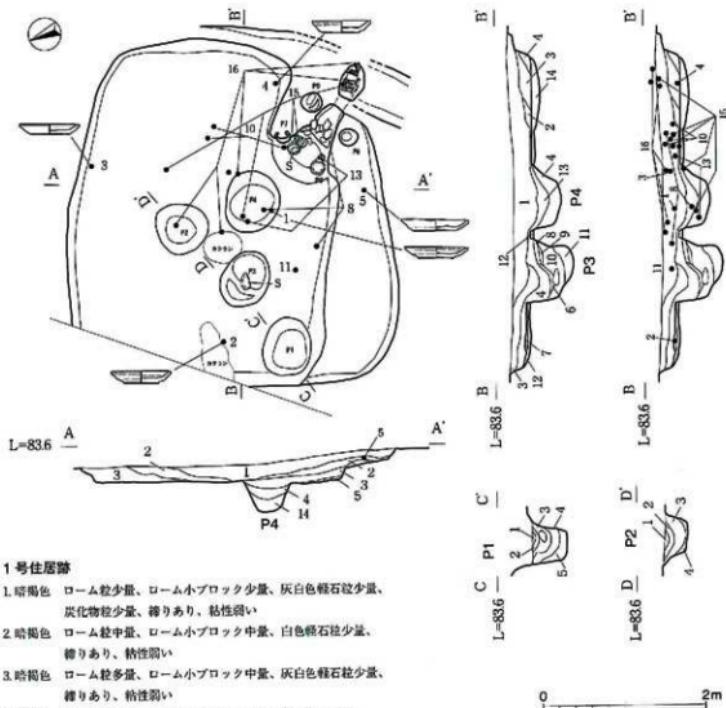
遺構所見：北西－南東方向にはばまっすぐ延びて、南東端部で終わっている。断面は浅い皿状である。

遺物所見：誇負何時台前期の台付き甕破片、8世紀初め頃の土師器坏細片が少量出土している。

時期：As-B軽石下から確認されているので、奈良・平安時代時代の遺構と見られる。

4. 遺構外遺物（遺物：第15図、第9表、P.L.8）

縄文時代の堀之内2式期の深鉢片と注口土器片、角閃石安山岩の叩き石が平安時代の遺構覆土やAs-B軽石下の旧表土層から出土している。



#### 1号住居跡

- 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、灰白色軽石粒少量、炭化物粒少量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、白色軽石粒少量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、灰白色軽石粒少量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、炭化物粒少量、繊りあり、粘性弱い
- 黒灰色 炭化物粒多量含む灰層、軟らかく
- 暗褐色 ローム小ブロック多量、繊りあり
- 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム小・中ブロック多量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム小ブロック多量、繊りあり、粘性なし
- 暗褐色 ローム粒少量、繊りあり、粘性なし
- 暗褐色 ローム小・中ブロック多量、繊りあり、粘性弱い
- 暗褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック中量、炭化物粒少量、櫻りあり、粘性ややあり
- 暗褐色 ローム粒中量、ローム大ブロック中量、ローム小ブロック多量、円筒埴輪片少量

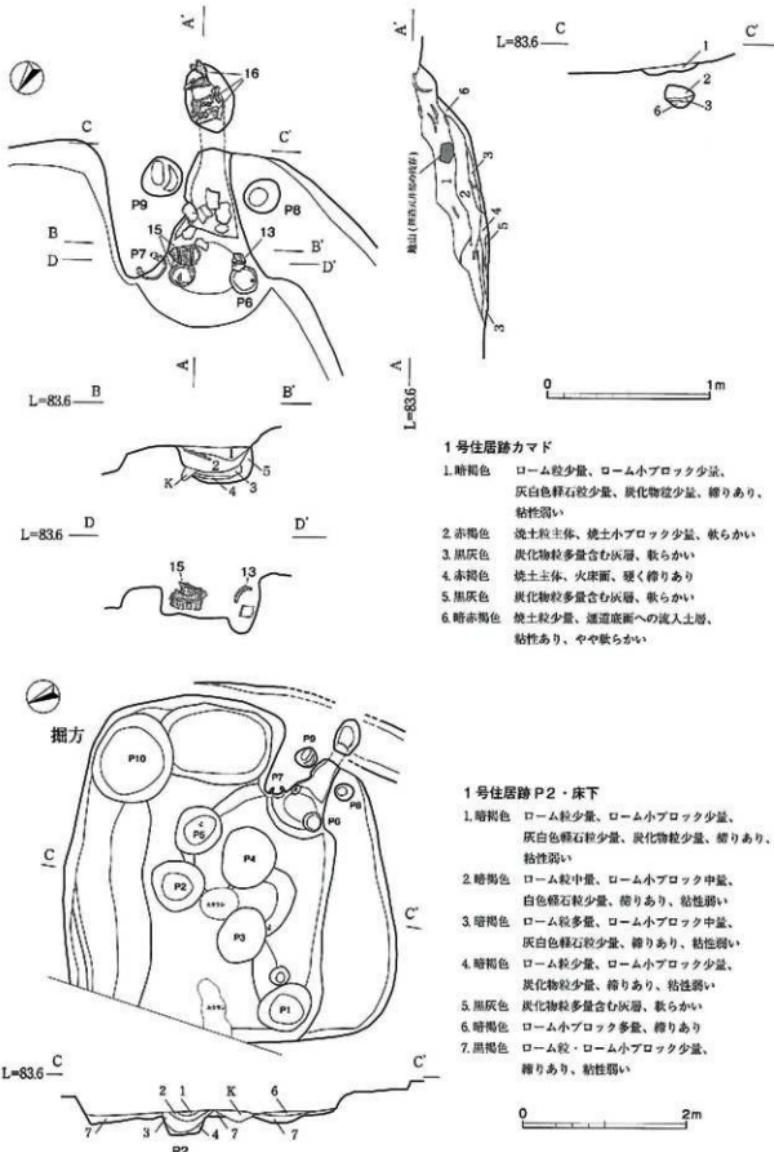
#### 1号住居跡 P1

- 黒褐色 ローム粒少量、やや軟らかい、粘性ややあり
- 暗褐色 ローム小ブロック多量、やや軟らかい、粘性ややあり
- 黒褐色 ローム粒少量、やや軟らかい、粘性ややあり
- 暗褐色 ローム粒中量、ローム小・中ブロック多量、繊りあり
- 暗褐色 ローム粒中量、繊りあり

#### 1号住居跡 P2

- 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、白色軽石粒少量、硬く繊りあり、粘性ややあり
- 暗褐色 ローム粒少量、炭化物粒少量、やや繊りあり
- 暗褐色 ローム小・中ブロック少量、やや軟らかい
- 赤褐色 深土中・大ブロック主体

第5図 1号住居跡



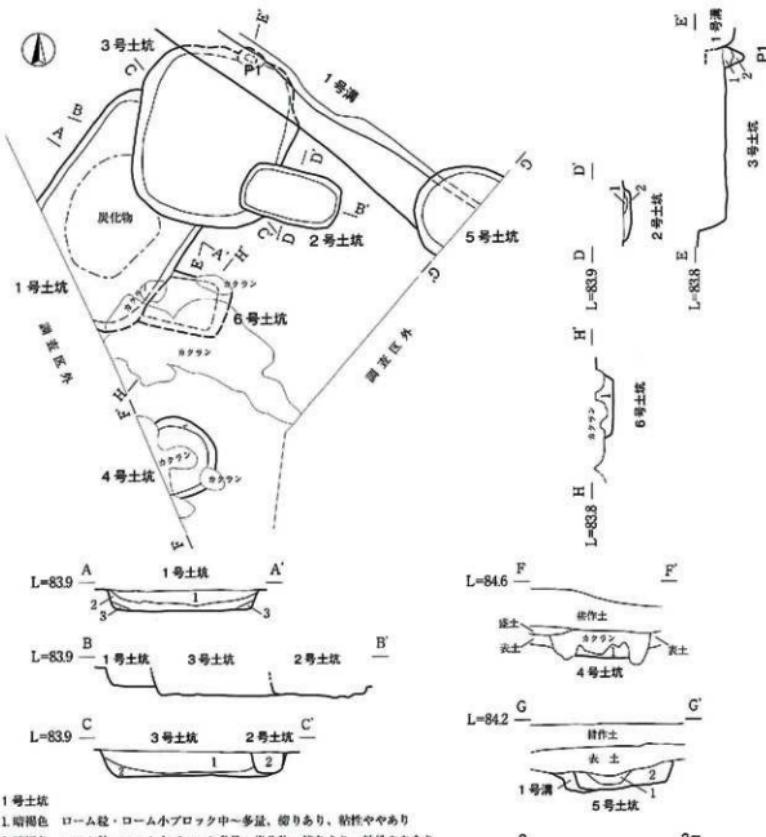
#### 1号住居跡カマド

1. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、灰白色鈣石粒少量、炭化物粒少量、繊りあり、粘性弱い
2. 赤褐色 燃土粒主体、焼土小ブロック少量、軟らかい
3. 黒灰色 炭化物粒多量含む灰層、軟らかい
4. 赤褐色 燃土主体、火照面、硬く繊りあり
5. 黑灰色 炭化物粒多量含む灰層、軟らかい
6. 暗赤褐色 燃土粒少量、煙道底面への流入土層、粘性あり、やや軟らかい

#### 1号住居跡 P2・床下

1. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、灰白色鈣石粒少量、炭化物粒少量、繊りあり、粘性弱い
2. 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、白色鈣石粒少量、繊りあり、粘性弱い
3. 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、灰白色鈣石粒少量、繊りあり、粘性弱い
4. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、炭化物粒少量、繊りあり、粘性弱い
5. 黑灰色 炭化物粒多量含む灰層、軟らかい
6. 暗褐色 ローム小ブロック多量、繊りあり
7. 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、繊りあり、粘性弱い

第6図 1号住居跡カマド・掘方



1号土坑

1. 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック中～多量、縫りあり、粘性ややあり
2. 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック多量、炭化物、縫りあり、粘性ややあり
3. 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、縫りあり、粘性ややあり

2号土坑

1. 黒褐色 ローム小ブロック少量、軟らかい
2. 暗褐色 ローム中ブロック中～多量、縫り・粘性あり

3号土坑

1. 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、As-B 硅石粒少量、炭化物少量、縫りあり、粘性なし
2. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、縫りあり、粘性弱い

3号土坑 P1

1. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、白色硅石粒少量、縫りあり、粘性弱い
2. 暗褐色 ローム小ブロック多量、縫りあり、粘性弱い

4号土坑

1. 黑褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少～中量、As-B 硅石粒少量、縫りあり、粘性弱い

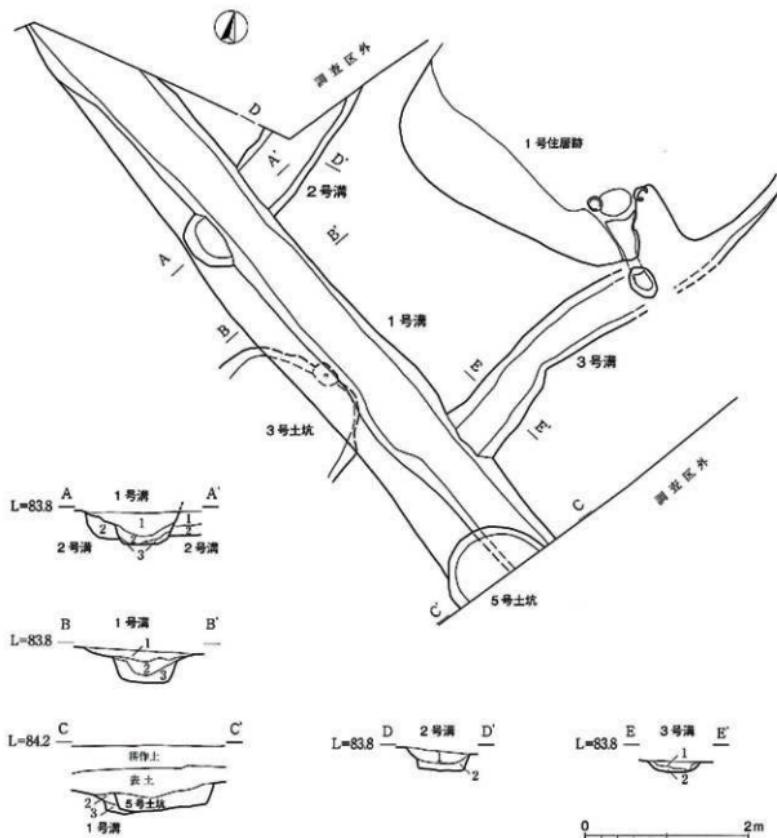
5号土坑

1. 黑褐色 ローム粒微量、As-B 中量、縫りあり、粘性弱い
2. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、As-B 硅石粒少量、縫りあり、粘性弱い

6号土坑

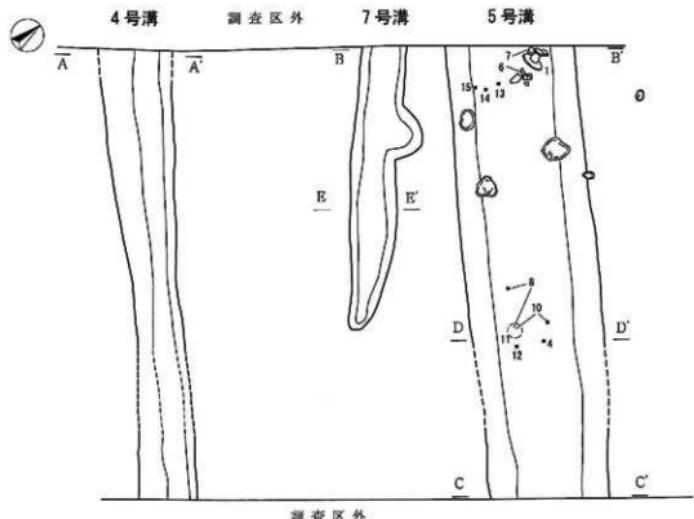
1. 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、As-B 硅石粒少量、縫りあり、粘性弱い

第7図 土坑

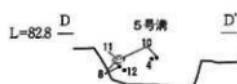


- 1号溝  
 1.暗褐色 ローム粒少量、明灰褐色粒・同ブロック少量、縫りあり、粘性なし  
 2.暗褐色 ローム粒少量、明灰褐色粒中量、縫りあり、粘性なし  
 3.暗褐色 ローム粒少量、明灰褐色粒・同ブロック多量、やや軟らかい、粘性弱い
- 2号溝  
 1.暗褐色 ローム粒少量、明灰褐色粒少量、縫りあり、粘性なし  
 2.暗褐色 ローム粒中量、明灰褐色粒少量、縫りあり、粘性なし
- 3号溝  
 1.暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック少量、灰白色鉆石粒少量、縫りあり、粘性なし  
 2.褐色 ローム小～中ブロック多量、灰白色鉆石粒ごく少量、縫りあり、粘性弱い

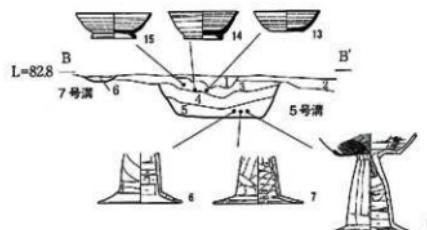
第8図 1～3号溝



- 4号溝  
 1. 砂褐色 表土層  
 2. 黒褐色 As-A 粗石混り、褐灰色気泡シルト土層  
 3. 黒褐色 As-A 粗石混り  
 4. 黒褐色 As-B 粗石少量  
 5. 黒褐色 As-B 粗石混じりの砂質土層、縫りあり、粘性弱い  
 6. 黒褐色 腐化物産業少量、As-B 粗石少量、縫りあり、粘性弱い



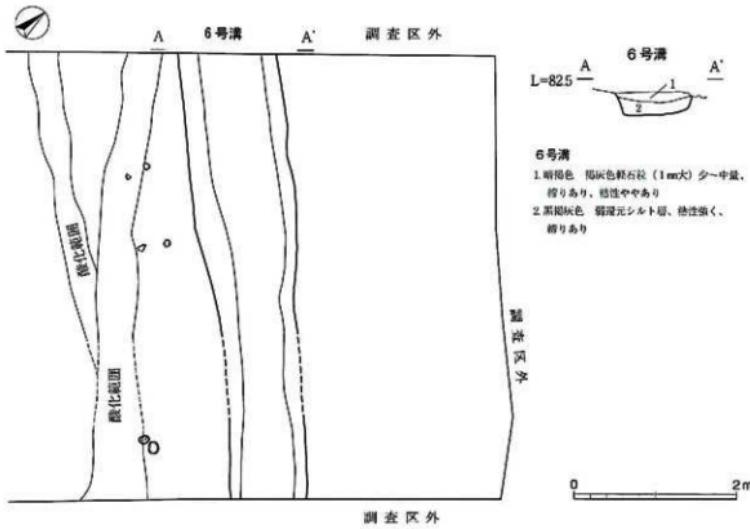
- 7号溝  
 1. 明灰色 上層に鉄分濃集、下層に鉄沈のマンガンの斑点。  
 粘性・縫り有り



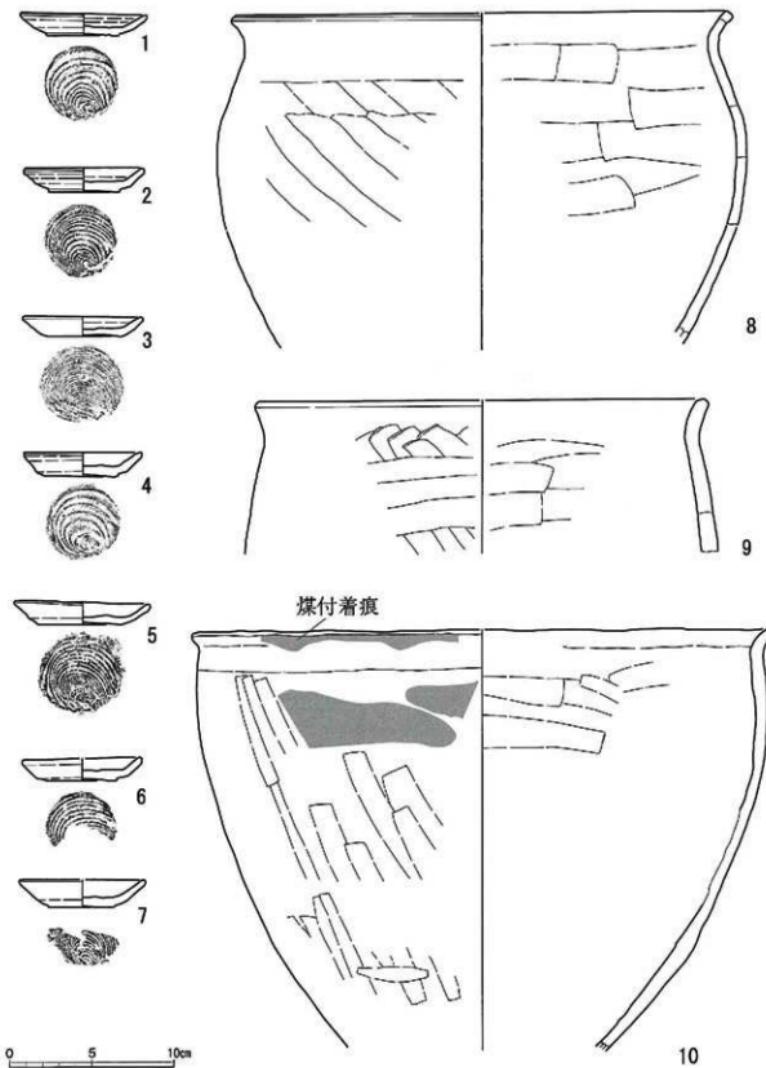
- 5・7号溝  
 1. 黒褐色 As-B 粗石多量、3~5cmの大自然塊少量、平安時代の土器片少量、縫り弱い、粘性弱い  
 2. 黑褐色 砂質シルト主体、酸化土がブロック状に見られる。  
 3. 黑褐色 鉄分が全体に凝集しやや褐色がかる。縫り弱く、縫りあり、粘性ややあり  
 4. 黑褐色 ローム粒少量、鉄分の凝集量多い。縫り弱く、縫りあり、粘性弱い  
 5. 黑褐色 ローム小ブロックに由る明褐色粘土小ブロック中含む。縫り弱く、縫りあり、粘性弱い  
 6. 明灰色 上位に鉄分が凝集、下位にマンガン粒が凝集、粘性・縫りあり。7号溝漂土

- 5号溝  
 1. 黑褐色 As-B 粗石多量、縫り弱い、粘性弱い  
 2. 黑褐色 深褐色粗石少量、やや軟らかい、粘性弱い  
 3. 黑褐色 鉄分が全体に凝集しやや褐色がかる。縫り弱く、縫りあり、粘性ややあり  
 4. 黑褐色 ローム粒少量、鉄分の凝集量多い。縫り弱く、縫りあり、粘性弱い  
 5. 黑褐色 ローム小ブロックに由る明褐色粘土小ブロック中含む。縫り弱く、縫りあり、粘性弱い

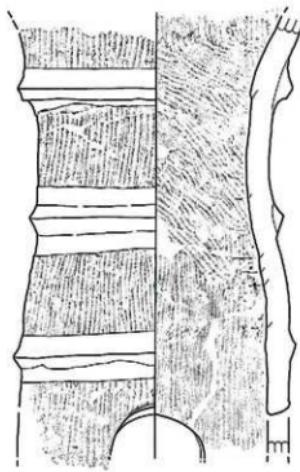
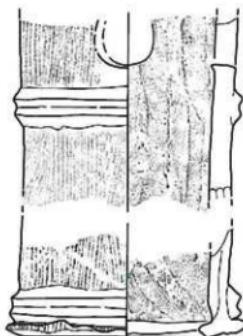
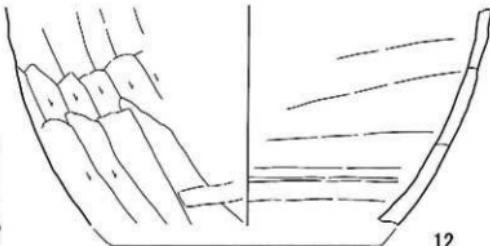
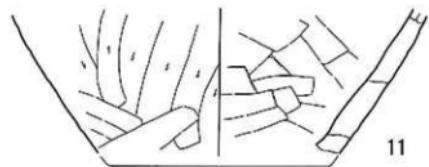
第9図 4・5・7号溝



第10図 6号溝

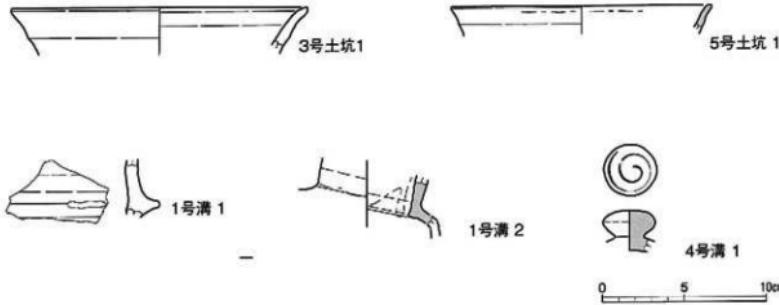
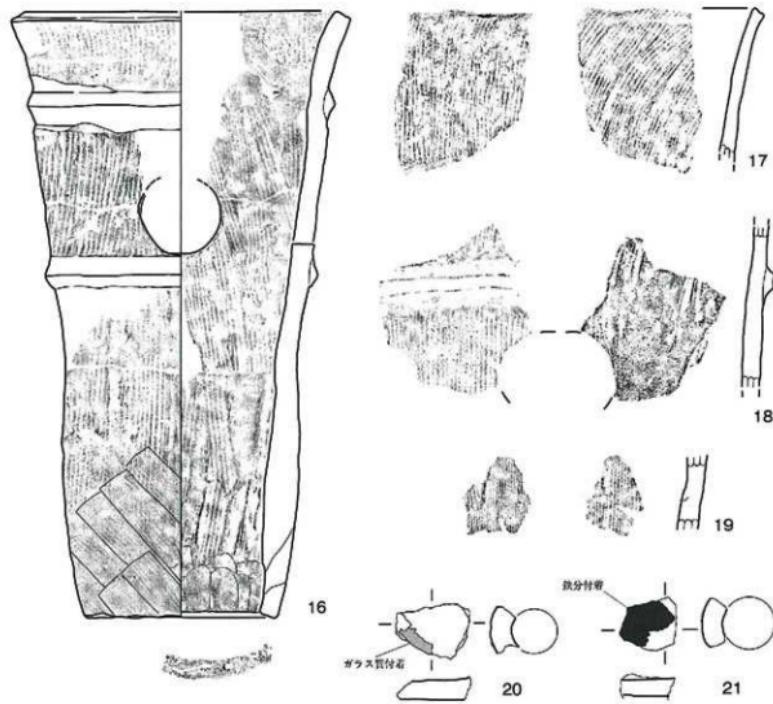


第 11 図 1 号住居跡出土遺物 (1)

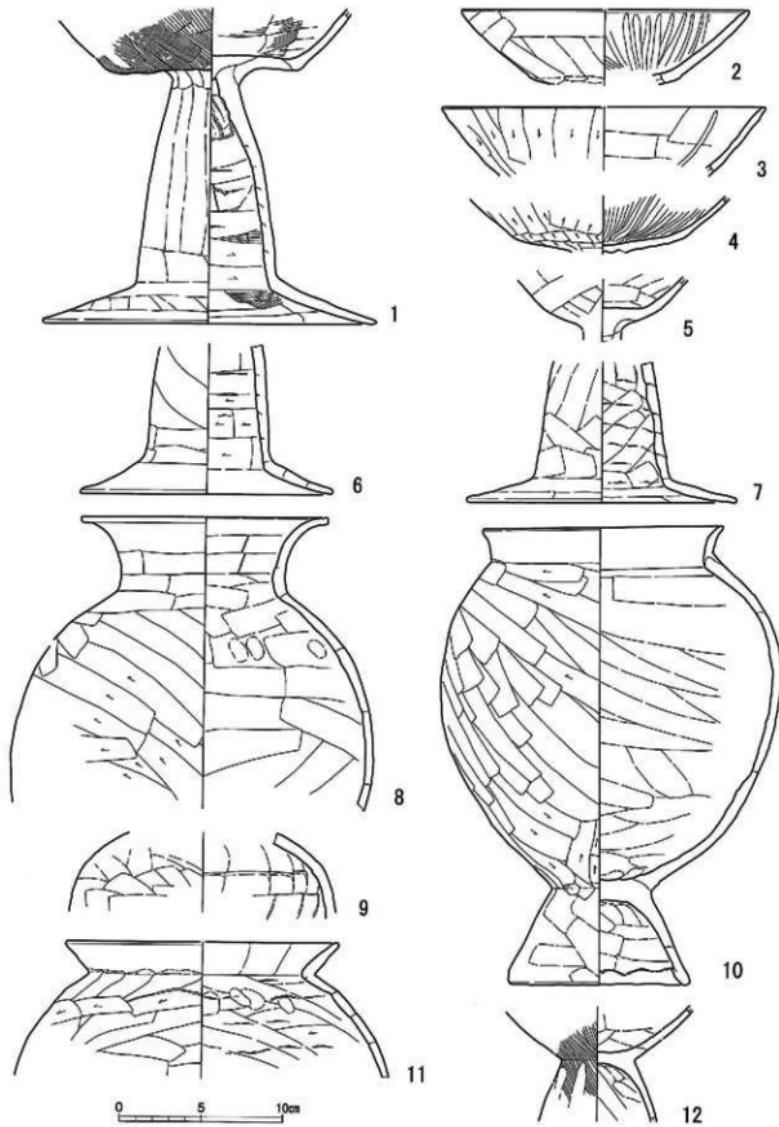


0 5 10cm

第12図 1号住居跡出土遺物（2）

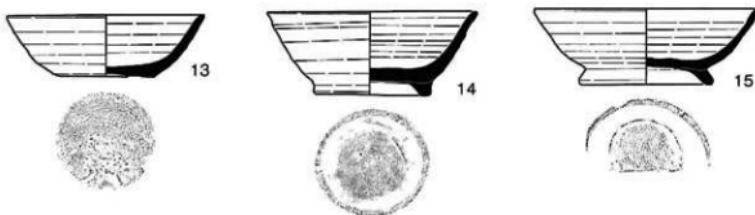


第13図 1号住居跡・3・5号土坑・1・4号溝出土遺物



第14図 5号溝出土遺物

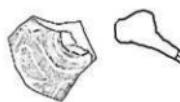
5号溝出土遺物



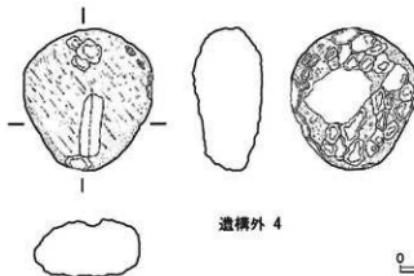
6号溝出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外 3



0 5 10cm

第 15 図 5号溝・遺構外出土遺物

第1表 1号住居跡出土遺物観察表（1）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 小皿	口径:7.7 底径:4.3 器高:1.4	①酸化焰焼成②にぼい橙色③微砂粒 ④完形	外面:輪縁整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:輪縁整形。	
2	土師器 小皿	口径:7.3 底径:4.3 器高:1.5	①酸化焰焼成②にぼい橙色③細砂粒 を多量④はげ光形	外面:橢円整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:橢円整形。	口縁部に打ち欠きあり、断面摩耗。
3	土師器 小皿	口径:7.3 底径:4.6 器高:1.3	①酸化焰焼成②にぼい橙色③細砂粒 ・海綿骨針を微系④完形	外面:輪縁整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:輪縁整形。	
4	土師器 小皿	口径:7.2 底径:4.3 器高:1.4	①酸化焰焼成②にぼい黄橙色③ チャート・角閃石を含む微砂粒④完 形	外面:輪縁整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:輪縁整形。	
5	土師器 小皿	口径:8.1 底径:4.8 器高:1.4	①酸化焰焼成②にぼい橙色③角閃 石・赤褐色粒子・砂粒・ごく微量の 海綿骨針④完形	外面:輪縁整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:輪縁整形。	
6	土師器 小皿	口径:7.3 底径:4.2 器高:1.3	①酸化焰焼成②灰黄橙色③微砂粒④ 3/5	外面:橢円整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:橢円整形。	
7	土師器 小皿	口径:7.6 底径:4.2 器高:1.5	①酸化焰焼成②にぼい黄橙色③角閃 石④1/3	外面:輪縁整形。底部回転糸切り後無調整。 内面:輪縁整形。	
8	土釜	口径:(31.0) 底径: - 器高: -	①普通②赤褐色③石英・チャート・ 白色粒子④口縁部・胴部破片	外面:口縁部横撫で、胴部斜め撫で。 内面:横撫で。	閉上復元。 外面胴部にスス付着。
9	土釜	口径:(28.0) 底径: - 器高: -	①普通②明赤褐色③石英・チャート など微砂多い④口縁部・胴部上位破 片	外面:口縁部横撫で、胴部縱撫で後横撫で。 内面:横撫で。	内面胴部に ヨゴレ。
10	土釜	口径:(35.4) 底径: - 器高: -	①普通②にぼい褐色③片岩(φ 3mm)・大砂礫④口縁部・胴部破片	外面:口縁部横撫で、胴部斜め撫で。 内面:横撫で。	閉上復元。 胴部内面剥落。
11	土釜	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②明赤褐色③石英・チャー ト・角閃石など微砂多い④胴部下位 破片	外面:胴部下位縱割り後横撫で。 内面:胴部下位斜め撫で後横撫で。	
12	土釜	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②にぼい褐色③白色粒子・角 閃石・石英④胴部下部破片	外面:胴部中位縱撫で後下位縱割り。 内面:胴部下半横撫で。胴部下位は輪縁撫で に似る。	
13	形象埴輪	口径: - 底径: 14.8 器高: -	①普通②橙③石英・チャート・角閃 石④基部部片・円筒部片	外面:低位置突起・突帯断面M字形・縦位ハ ケ(ハケ10本/2cm) 内面:底部内面縦位・斜ナデ・円筒部縦位ナ デ	形象埴輪基 部、被 热、 No13と同一 個体
14	形象埴輪	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②にぼい黄橙色③角閃石④破 片	外面:縦位ハケ(ハケ10本/2cm) 内面:縦位ナデ	被 热、No13 と同一個体
15	朝顔形 埴輪	口径: - 底径: - 残高: (27.3)	①普通②明赤褐色③石英・長石・砂 ④口縁段のはほとんどを欠損、上から 4段目まで残存	外面:縦位ハケ(ハケ7本/2cm) 内面:下半縦位ハケ、上半細かく斜めハケ	被 热、内外 面煤・粘土 付着

第2表 1号住居跡出土遺物観察表(2)

16	円筒埴輪	口径:(20.6) 底径:(11.8) 器高:(37.3)	①普通②明赤褐色③石英・長石・角 閃石④不焼成の2片・口縁部短く、 並下段が長い	外面:縦位ハケ(ハケ8本/2cm)、突帯断面3 角形、底部調整一指揮圧 内面:縦位ハケ(ハケ8本/2cm)、最上突帯内 面斜めナデ、底部調整一指揮え	外面焼付着 団上復元
17	円筒埴輪	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②橙色③角閃石・石英・長石 ④口縁破片	外面:縦位ハケ(ハケ9本/2cm) 内面:口縁端部をヨコナデ後斜めハケ(ハケ9 本/2cm)	
18	円筒埴輪	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②橙色③角閃石・石英・長石 ④透孔を含む破片	外面:縦位ハケ(ハケ8本/2cm)、突帯断面M 字形 内面:強めの縦位ハケ後、透孔周辺斜めナデ	被熱
19	円筒埴輪	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②明赤褐色③角閃石・石英・ 長石④破片	外面:縦位ハケ(ハケ12本/2cm) 内面:縦位ハケ(ハケ12本/2cm)	
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
21	繩羽口	外径:(5.2) 内径:(2.6) 厚さ:1.2	灰黄色・白色粒子を多量、破片、外面発泡、ガラス質付着。		
22	繩羽口	外径:(5.3) 内径:(3.1) 厚さ:1.3	灰黄色・白色粒子、破片、外面発泡、鉄分付着。		

第3表 3号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径:(16.2) 底径: - 器高: -	①酸化焰焼成②にぶい橙色③白色粒子・ 黒色粒子・石英。角閃石④口縁部破片	外面:輪轍整形。 内面:輪轍整形。	

第4表 5号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	灰釉陶器 壺	口径:(16.0) 底径: - 器高: -	①良好②灰白色③黑色粒子④口縁部破片	外面:輪轍整形。内外面灰釉掛け。	

第5表 1号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	羽釜	口径: - 底径: - 器高: -	①普通②にぶい黄褐色③石英・角閃石・ 片岩④口縁部破片	外面:輪轍整形。 内面:輪轍整形。鉄貼付。	
2	灰釉陶器 平瓶	口径: - 底径: - 器高: -	①良好②灰白色③黑色粒子④頸部破片	外面:輪轍整形。肩部に自然釉。 内面:輪轍整形。頸部に自然釉。	

第6表 4号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器 蓋	口径: - 底径: - 器高: -	①良好②橙色③ - ④構み部のみ完存	外面:輪轍整形。鉄で渦巻き文。	

第7表 5号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高壺	口径：－ 底径：20.5 器高：－	①普通②明赤褐色③角閃石・石英など微 少多い④壺部下半以下2/3	外面：壺部縦刷毛、脚部横撫で後下位横 撫で、裾部斜め撫で後横撫で。 内面：壺部横撫でと横刷毛、脚部横刷毛 後横撫でと横削り、裾部横撫でと横刷毛。	
2	土師器 高壺	口径：(17.8) 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい褐色③白色粒子・黒色粒 子・石英④口縁部破片	外面：壺部横撫で後口縁部横撫で。 内面：横撫で後放射状に荒磨き。	外面に鉄分 付着。
3	土師器 高壺	口径：(17.5) 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい橙色③黒色粒子・白色粒 子・石英④口縁部1/4	外面：横削り。 内面：横撫で後放射状に荒磨き。磨き磨減。	外面に黒斑 あり。8と同 一個体か。
4	土師器 壺	口径：(16.3) 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄褐色③白色粒子・石 英・雲母④口縁部1/5	外面：口縁部横撫で、胴部縦撫で後上位 横削り。 内面：口縁部横撫で、胴部指押え後横削 りと斜め撫で。	
5	土師器 高壺	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②橙色③石英・チャートなどの微 少多い④接合部のみ2/3	外面：縦撫で後横撫で。 内面：斜め撫で後横撫で。	内外面に黒 斑あり。
6	土師器 高壺	口径：－ 底径：15.6 器高：－	①普通②赤褐色③白色粒子・角閃石・石 英④脚部一部4/5	外面：脚部斜め撫で後下位横撫で、裾部 単位不明瞭な横撫で。 内面：脚部上半横撫で後下位横削り、裾 部横撫で。	器面の摩耗 激しい。内 外面に鉄分 付着。
7	土師器 高壺	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②明赤褐色③白色粒子・角閃石・ 石英④脚部一部4/5	外面：脚部縦撫で後下位横撫で、裾部横 撫で。 内面：脚部指押え後斜め撫で。横撫で。	器面の摩耗 激しい。
8	土師器 壺	口径：15.3 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄褐色③黒色粒子・角閃 石④口縁部～胴部中位2/3	外面：口縁部横撫で、胴部斜め削りと塗 で後上位横撫で。 内面：横撫で。	内外面に鉄 分付着。
9	土師器 壺	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄褐色③白色粒子・角閃 石④脚部上半破片	外面：胴部上位斜め撫で後中位横撫で。 内面：胴部上半横撫で。	内外面に鉄 分付着。
10	土師器 台付壺	口径：14.7 底径：11.0 器高：28.4	①普通②褐灰色③長石・石英・チャート などの微砂④4/5	外面：口縁部横撫で、胴部下位斜め削り後上 半斜め削り、台部斜め撫で後下位指押え。 内面：口縁部横撫で、胴部斜め撫で、台 部横撫で。	
11	土師器 台付壺	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄褐色③白色粒子・黑色 粒子④胴部下位～台部上半2/3	外面：胴部下位～台部縦刷毛後縦撫で。 内面：胴部斜め撫で、台部横撫で。	内外面に鉄 分付着。
12	土師器 高壺	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄褐色③白色粒子・黑色 粒子④壺部下半のみ1/5	外面：横削り。 内面：横撫で後放射状に荒磨き。	15と同一個 体か。
13	須恵器 壺	口径：12.1 底径：5.9 器高：3.8	①還元焰燒成②灰白色③白色粒子・黑色 粒子・橙色粒子④完形	外面：輪轂整形。底部回転糸切り後無調整。 内面：輪轂整形。	還元焰燒成 だが、内外 面に黒斑あ り。

14	須恵器 塊	口径：13.0 底径：7.3 器高：5.2	①還元焰焼成②灰黃色③白色粒子・黑色 粒子④完形	外面：輪轍整形。底部回転糸切り後高台 貼付。 内面：輪轍整形。	
15	須恵器 塊	口径：(13.8) 底径：(8.3) 器高：4.7	①還元焰焼成②灰白色③黑色粒子・白色 粒子・石英・角閃石④1/3	外面：輪轍整形。底部回転糸切り後高台 貼付。 内面：輪轍整形。	
16	羽釜	口径：(27.5) 底径：－ 器高：－	①酸化焰焼成②にぶい黄橙色③黑色粒 子・角閃石・白色粒子④口縁部破片	外面：輪轍整形。鉗貼付。 内面：輪轍整形。	

第8表 6号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 蓋	摘部径：4.4 摘部高：0.8	①還元焰焼成、焼成不良で軟質②外面灰 色、断面灰白色③微砂粒④摘部のみ	外面：輪轍整形。摘部貼付。 内面：輪轍整形。	

第9表 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	繩文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄橙色③石英・白色粒 子・黑色粒子④口縁部破片	地文LR半節繩文施文。斜位3条沈線、重 四角文。	堀之内2式。
2	繩文土器 深鉢	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②にぶい黄橙色③石英・白色粒 子・黑色粒子など微砂多い④胴部破片	地文LR半節繩文施文。斜位集合沈線文施 文。	堀之内2式。
3	繩文土器 注口土器	口径：－ 底径：－ 器高：－	①普通②オリーブ黒色③白色粒子・石英 など微砂多い④口縁部破片	口縁部直下に貼付文。孤状沈線文施文。	堀之内2式。
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	打製石器 敲石	長さ8.6、幅7.6、厚さ4.1。重さ168g。表裏に敲打痕。表面には長方形の凹みあり。表面に研磨は 認められない。			

## V 総 括

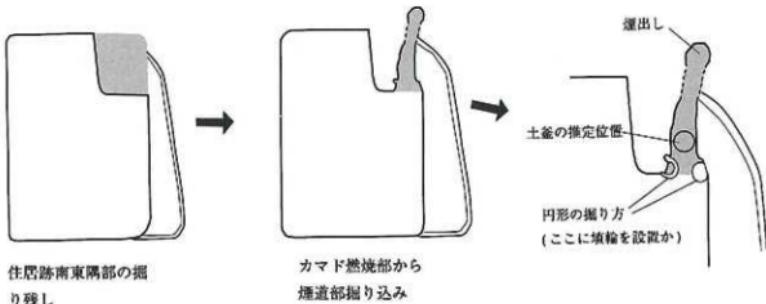
調査区内から確認された遺構は、古墳時代以降の溝2条と平安時代後期の竪穴住居跡が1軒、中世以降の溝5条と土坑6基である。

古墳時代の5号溝は、低地に掘られた断面逆台形の直線的な溝で、覆土からは古墳時代中期の遺物が出土している。遺物はやや大型の高壙と体部ケズリ調整の壺・壺類である。高壙は、壙部外面に稜を持ち、脚部が僅かに膨らむラッパ状のやや大型の高壙で、少なくとも3個体が底面付近からまとめて出土している。壺・壺類は覆土中層からまとまって出土しており高壙群とは別の一群である。5世紀前半の上佐野舟橋遺跡は巨大墳墓を構築する地域に隣接しており、台地上ばかりでなく埋没河跡のような低い場所でも何らかの土地利用をしているのではないかと思われる。たとえば古墳や居館跡の区画溝のような施設の可能性をも考えさせるような遺物群である。

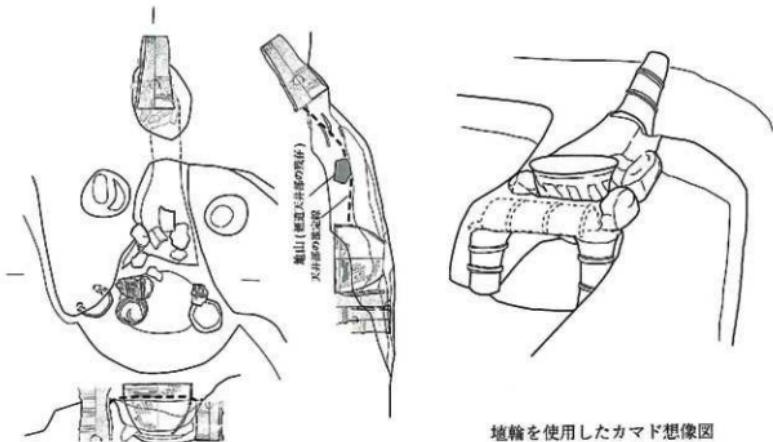
平安時代の上佐野舟橋遺跡は8世紀末頃からしだいに数を増加しながら12世紀頃まで継続していたとされるいる集落跡である。本調査区の1号住居跡は舟橋遺跡の竪穴住居跡の中でも新しい時期の遺構になるものと思われる。形状はカマドに特徴がある。一般的に11世紀頃のカマドは竪穴の壁を掘り込んで壁よりも外側に掛け口想定の位置があるのが多いのに対して、この竪穴住居の場合竪穴住居の掘り込みの南東部と棚状部を内側に掘り残してカマドを構築している。そのためカマドの掛け口が内側にある形となっている。袖部などには近隣の古墳から採取してきた埴輪を使って構築しており、埴輪の外面の粘土の貼り付き痕跡や煤痕跡を勘案すると、カマド全体形は焚き口幅が狭く、煙道部が長く、燃焼室の高さが低いカマドが推定できる。

1号竪穴住居跡から出土している土器類は、酸化焰焼成の小皿が7点と酸化焰焼成の土釜が5点で、土釜類が炊飯具の主体となっているようである。第11図10の土釜は口径が大きく開いた器形で、口縁部外面の煤付着痕や内面の器面の荒れ痕、複数破片に割れて円筒埴輪片とともにカマド覆土から出土している点などから、このカマドに掛けられていた可能性が考えられ第16図のようなカマド復元案とした。この口縁部の開く形の大型の土釜の場合、カマドでの使用は煙や煤が抜けるような緩い掛け口に置かれていたのではないかと思われる。底部はその重量を支えるための支脚を使用せず、底部径のやや小さいカマド火床直置きではないかと思われる。

酸化焰焼成の小皿5点は完形品で、竪穴住居跡の東西南北の覆土下層から出土しているため、竪穴住居跡廃絶後



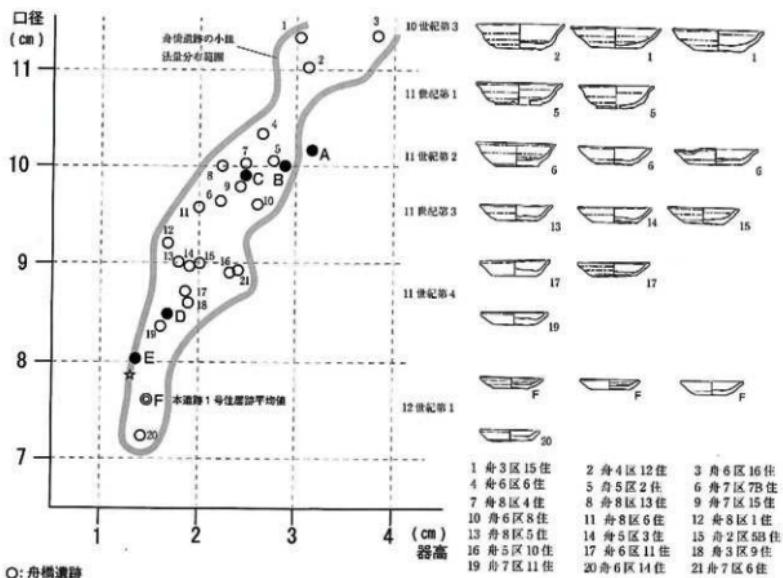
第16図 カマド構築解説図



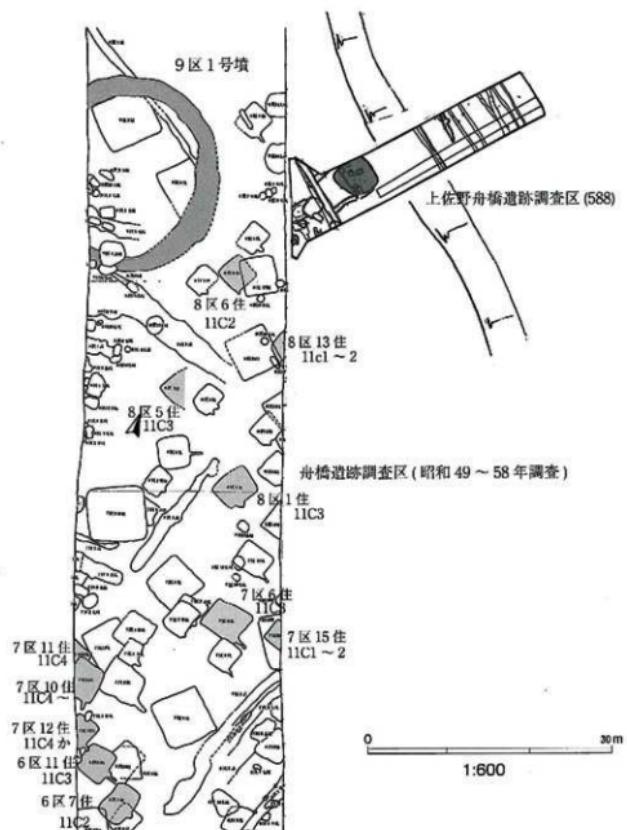
埴輪を使用したカマド想像図

第17図 埴輪を使用したカマドの復元案

に意図的に配置遺棄されている可能性が考えられる。小皿は形態と法量がよくまとまっており一時期の良好な資料と見られる。この小皿群と比較できる資料には、以前からよく知られる鳥羽遺跡の322号祭祀土坑の資料を初めとして県内の11世紀代の各遺跡の資料や高崎市内の遺跡では群馬県埋蔵文化財事業団で実施した上佐野舟橋遺跡の資料、剣崎船荷塚遺跡の2号住居跡出土資料等がある。鳥羽遺跡の322号土坑の小皿は造構の直上を覆う1108年浅間山噴火に伴う浅間B軽石との関係から、12世紀初頭頃の基準資料とされている。小皿は時期によって大きさが変化しており群馬県内での一般的な変化の傾向を数字で比較してみると、11世紀代を中心とした群馬県内の資料については三浦1990から引用すると、10世紀第4四半期は加茂遺跡37号住居跡資料があり、小皿13点の口径値平均は10.2cm、器高3.2cmである。11世紀第1四半期の小皿は、荒砥天之宮遺跡A区14号住居跡資料で、1点口径値10cm、器高2.9cmである。11世紀第2四半期は田端遺跡B区48号住居跡資料で小皿8点の口径値平均は9.96cm、器高2.46cmである。11世紀第3四半期は荒戸上久保遺跡3区9号住居跡で、小皿10点の口径値平均は8.5cm、器高1.7cmである。これをグラフで表したものが、第19図の上のグラフである。下のグラフは舟橋遺跡の竪穴住居跡の資料の中で酸化焰焼成小皿の資料の法量ドットと上図で示した年代の比定されている各遺跡の小皿法量を平均値として黒丸で示している。その中に本跡の1号竪穴住居跡の資料の位置、参考として剣崎船荷塚の資料を示している。このグラフから判断すると、舟橋遺跡は10世紀の第1四半期頃若干資料が欠けるが、11世紀第2～3四半期頃集落は安定し、11世紀末葉頃から数量を減らしに12世紀第1四半期頃に集落が終わると見られる。よって本報告の1号竪穴住居跡は舟橋遺跡の中では最終段階の、12世紀第1四半期の時期のものと捉えるのが妥当かと思われる。



第18図 11世紀前後の小皿の法量変化と舟橋遺跡の小皿の年代的位置づけ



第19図 舟橋遺跡と本調査区の位置関係

#### 参考文献

- 飯坂卓二 1989『下佐野遺跡』I 地区・寺前地区(3) 群馬県埋蔵文化調査事業団 第77集  
 井川達雄・下城 正 1989『舟橋遺跡』(財)群馬県埋蔵文化調査事業団 第92集  
 群馬町史編纂委員会 1998『群馬町史資料編1』群馬町史刊行委員会  
 高崎市史編纂委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2』高崎市  
 口田一郎 1981『元鳥名村那坂古墳』高崎市教育委員会  
 口田一郎 1978『鉢ノ宮遺跡』高崎市教育委員会  
 口田一郎 1998『新たな土器が成り立つと』『人が動く・土器も動く』かみつけの里博物館  
 尾柴直人 2011『東日本初期武家政権の考古学的研究－平泉勢力圏の位置付けを中心に－』博士（文学）総合研究大学院大学・学位論文  
 日沖剛史 1999『栄町五遺跡』高崎駅東1・栄町遺跡調査会  
 三浦京子 1990『群馬県における8～11世紀の黒色土器について』『東国土器研究』第3号  
 三浦京子 1989『平安時代の煮沸土器について』－土釜とは何か－『研究紀要』6 (財)群馬県埋蔵文化調査事業団  
 村上翠義『下佐野一本木遺跡』高崎市教育委員会  
 須賀邦男 1992『烏羽遺跡』(財)群馬県埋蔵文化調査事業団 第128集  
 岩佐 徹 2013『群馬県の様相』『日本考古学協会2013年度大会』一般社団法人日本考古学協会

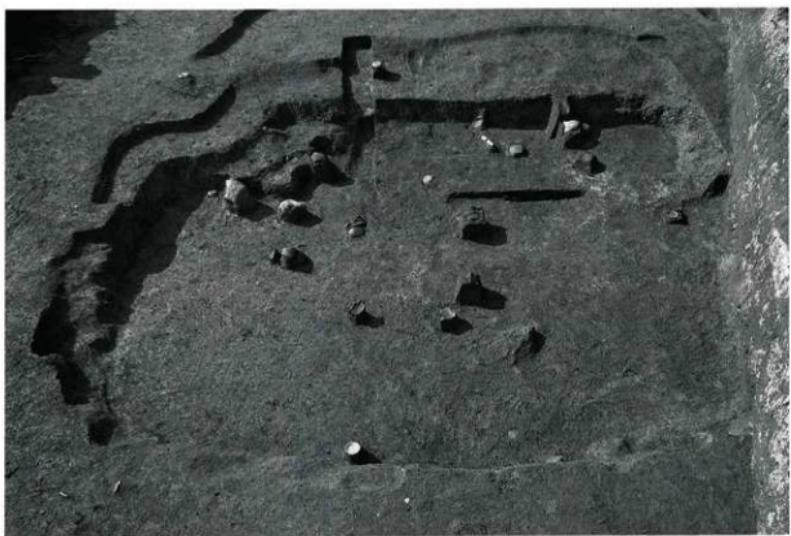


# 写 真 図 版





調査区全景（北西から）



1号住居跡遺物出土状況（北東から）



1号住居跡



1号住居跡カマド完掘状況



1号住居跡カマド遺物出土状況



1号住居跡カマド遺物出土



1号住居跡遺物出土状況 (南から)



1号住居跡小皿(3)出土状況



1号住居跡小皿(2)出土状況



1号住居跡南東部遺物出土状況



1号住居跡掘り方完掘状況



1号溝完掘状況（南東から）



2号溝完掘状況



3号溝完掘状況



4号溝完掘状況



5号溝完掘状況



5号溝遺物出土状況



5号溝遺物出土状況



5号沟遗物出土状况



5号沟遗物出土状况



7号沟遗物出土状况



6号沟遗物出土状况



1号土坑



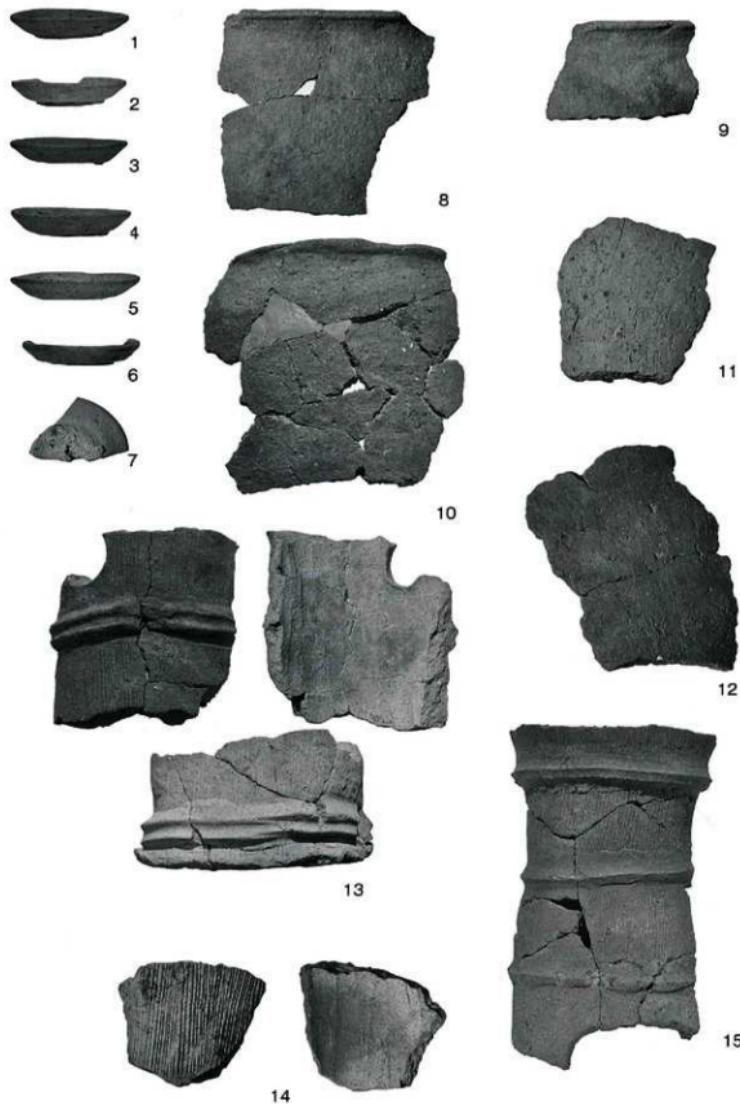
2号土坑



3号土坑



4号土坑



1号住居跡出土遺物



1号住居跡出土遺物



5号清出土遗物



10



11



12



13



14



15



16

5号沟出土遗物



1



2



3



4

遗桥外出土遗物

## 報告書抄録

ふりがな	かみさのふなばしいせき							
書名	上佐野舟橋遺跡5							
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第338集							
編著者名	土生朗治							
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804							
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所							
発行年月日	2014年7月31日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上佐野舟橋遺跡	群馬県高崎市上佐野舟橋135番地	102020	588	36° 18' 17"	139° 1' 4"	20140205 ~ 20140307	197.4m <sup>2</sup>	宅地開発に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上佐野舟橋遺跡	集落	古墳時代 平安時代	堅穴住居跡 土坑溝	1軒 6基 7条	土師器 須恵器 灰釉陶器 羽口埴輪		12世紀前葉の時期の酸化焰焼成の小皿と口縁部の開く土釜が出土している。	

高崎市文化財調査報告書 第338集

## 上佐野舟橋遺跡5

平成26年7月31日 印刷

平成26年7月31日 発行

編集 有限会社 毛野考古学研究所  
発行 有限会社 毛野考古学研究所  
印刷 朝日印刷工業株式会社

